

北原白秋と唐津の民謡	分野	文化
	地域	唐津・呼子
	◎地図・写真・統計資料など	
<p>北原白秋(1885年1月25日～1942年11月2日)は、日本の詩人・童謡作家・歌人。本名、隆吉。福岡県柳川出身。詩・童謡・短歌以外にも、新民謡の分野にも傑作を残す。生涯に数多くの詩歌を残し、今なお歌い継がれる童謡を数多く残すなど、活躍した時代は「白露時代」と呼ばれる近代日本を代表する詩人である。</p> <p>旧制伝習館中学に進学するが、この頃より雑誌「文庫」「明星」に傾倒、詩歌に熱中し父親に無断で中学を退学。早稲田大学英文科予科に入学後、いち早く新進詩人として注目される。1906年新詩社に参加し、与謝野鉄幹、与謝野晶子、木下杢太郎、石川啄木らと知り合う。</p> <p>1907年、鉄幹らと九州に遊び(『五足の靴』参照)唐津に滞在。</p> <p>1930年5月に制作された「唐津小唄」は42章から成り、唐津の地名や故事をふんだんに使い、「唐津 唐舟 とんとの昔…」以下は各章に繰り返し歌われている。「唐津小唄」の著作権が「北九州鉄道(当時唐津に本店を置いた 福岡から唐津経由伊万里までの鉄道会社)」であったことから、その当時の唐津の経済史とも関連があり興味深い。またその当時、北原白秋は、新進作曲家の町田嘉章とコンビで多くの創作民謡を手がけており、「唐津小唄」と「松浦瀆」(ともに1930年作)もこの2人の名コンビで生まれ、花柳寿徳氏の振付も相まり、広く市民に親しまれてきた。</p>	◎引用・参考文献(出典)	
◎エピソード・伝承・うんちく など	◎もっと詳しく知りたい方は	
<p>■北原白秋は2度呼子の山下家を訪れた</p> <p>樺太旅行の汽車の中で、「松浦瀆」創始者の三男と意気投合し、呼子の山下家を訪れると約束。1907年と1929年の2回、山下家の別荘で過ごしている。「ひばりヶ丘」は、その別荘があった場所で、白秋が名づけたといわれている。また、「水光呼子」というキャッチコピーは、白秋の故郷「水郷柳川」に対して「水光る街、呼子」から、白秋が呼んだという説もある。ともあれ、お酒をたしなみながら数日間過ごし、「唐津小唄」「松浦瀆」の創作をし、「松浦瀆音頭」まで創作したとのこと。</p>	<p>唐津市近代図書館へお問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>	